

あいち病害虫情報 最新情報

平成 22 年 5 月 18 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

ムギの病害

赤かび病の発生は、現在のところ平年に比べ少ない状況です。収穫期が近づいているので、農薬を散布する場合は、使用回数や収穫前日数に留意し、飛散防止に十分注意しましょう。また、収穫期の降雨は、赤かび病の蔓延を助長します。収穫期を迎えたほ場から、速やかに収穫しましょう。

果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの越冬世代成虫は5月上旬の暖かい日に予察灯で誘殺されましたが、フェロモントラップには今のところほとんど誘殺されていません。しかし、カンキツ等でチャバネアオカメムシが大量に確認されており、平坦部の果樹園での目撃も増えています。今週は気温が平年を上回る予報になっていますので、飛来状況に十分注意してください。詳細は、4月16日発表の「平成22年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

果樹の病害

落葉果樹の生育は天候不順の影響からやや遅くなっていますが、その程度は樹種により違いがあります。生育ステージに注意して、適期防除を心がけましょう。

ナシ黒星病は、幼果で発生を確認しました。連続した降雨もあり依然注意が必要です。初発を確認したら、ただちに防除をしてください。

ブドウ黒とう病は、梅雨明けまで降雨のたびに二次伝染し発病が拡大します。昨年発生が多かったほ場や発病を確認したほ場では、防除しましょう。

ブドウ晩腐病は開花直前から防除適期に入ります。開花期の重点防除時期を逃さないようにしましょう。

果樹の害虫

モモハモグリガのフェロモントラップにおける誘殺数は少ない状況ですが、第2世代ふ化幼虫の適期防除は重要です。有効積算温度を用いた防除適期予測日は、豊橋市が5月26日、豊田市が5月30日です。防除適期予測日を参考に遅れないように防除しましょう。

カキのほ場ではフジコナカイガラムシの成虫を確認しています。フジコナカイガラムシの生育は有効積算温度から昨年より5日程度遅れていると予測しますが、5月下旬には卵のうが発生してきますので、ほ場で卵のうを見つけた場合、ふ化状況を確認し、防除適期であるふ化最盛期に、粗皮の隙間にも薬剤がかかるように防除しましょう。

チャノコカクモンハマキのフェロモントラップにおける誘殺数は一部地域で多い状況です。第1世代成虫の発生ピークは4月末頃でした。防除適期であるふ化最盛期は成虫発生ピーク日より2週間後で、現在、防除適期です。遅れないように防除しましょう。

チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、東海市5月20日、名古屋・蒲郡5月22日、岡崎・豊橋5月23日、豊田・伊良湖5月24日、愛西・南知多5月26日、稲武6月16日と予想されます(5月16日時点)。防除適期は発生ピーク時ですので、防除適期を逃さないようにしましょう。ブドウでは袋がけ前に防除を徹底することが重要です。

キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

- ・防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

マイナー作物対策・ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ

TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820